

## <各勤務校 現状>

### (小学校)

- ・1学年3~4クラス、700名弱 司書・週1日勤務  
「図書の時間」の活用…高学年が時間割上取りにくい 図書室が狭い
- ・各学年週1回読書(図書の時間) 業間…図書ボランティア、児童委員会 隔週図書支援2名
- ・貸出しを増やすためにカード式からブラウン式へ貸出し方法を変更  
↓  
読書指導どうする?(履歴が残らない)
- ・朝から下校時までオープン 1~4限は授業があって、貸出しが多い 学級での活用が少ない
- ・授業での利用は読書センター的な琴が多い  
蔵書は標準冊数に足りないので、公共図書館より団体貸し出しを受けている
- ・本好きの子は20分休憩、昼休みに来て読書したり、本を借りに来る 興味ない子は授業の時に来て、借りている
- ・利用者はいる、貸出し数も多い 学級での利用が少ない 図書室の利用が集中する(割り当て国語)
- ・各教科ではなく、総合・創発 時間が固定なので利用が重なり、利用者が多くなる

### (中学校)

- ・全く本を読まない生徒がいる(朝読があるにもかかわらず) 読書活動について職員の理解が深まらない
- ・総合学習は行っているが、教科横断できてない 本の貸し出しが減少
- ・週1回図書館コーディネーター(4h)が本の整理やレイアウトをしてくれます  
昼休みは給食が始まってから開館できないので、放課後開館しています
- ・専任の学校司書がいらない→司書コーディネーターという方がいて、週に1回6時間勤務して下さるだけ

### (高校)

- ・司書教諭一人で選定、配架、事務作業全般すべてやっている(今年初めて軽減)  
今年から司書教諭に 予算が10万程度で足りない 教科との連携が大変
- ・本少ない、人少ない のんびりしている
- ・利用者(来館者)の減少 特に高校 一部の教科しか図書館を利用しない
- ・木で本棚を作った 生徒の利用は多くない 専門書はほとんど利用されない、小説を借りに来る  
図書館利用の授業をするにしても、本が充実していないのでなかなか難しい
- ・利用者が少ない

### (支援)

- ・生徒112名、3000冊 古い本、多目的室として使用、利用時間の制限、有効利用されていない)
- ・台帳上の蔵書1100冊(教師用が多い) 週3日開館(昼休みのみ)  
1日当たりの利用者10人前後、半数以上はPCでネットをしている

### (全体など)

- ・図書館は広く蔵書も多いが、利用する生徒が少ない  
教職員が図書選定を行っているため、生徒の興味関心とのギャップが大きい
- ・8000冊程度、ボランティア司書4h×4日/week、開館は月~木の午前中の休み時間のみ
- ・図書委員がみんなに読書を勧めるための「おたのしみ袋」を作って、迷っている人におすすめ本を提案している
- ・週1回の図書の授業 15分間読み聞かせ、のこり返却・貸出し・自由読書
- ・学校司書がいらない 買う本の縛りは少ない 北館の4階にあって人が来づらい
- ・年1回or学期に1回調べる学習
- ・時々調べ学習で図書室使用 授業で図書館を使用は2教科
- ・図書室からラーニングcommonsへ移動中 うちも可動式の机を42台入れた  
本は古いものや小説の類を減らして、調べ学習に必要な本を増やした

## <各勤務校 課題 >

- ・関わる人が少ない（サポート、ボランティア、司書、職員の組織、etc.）
- ・開館時間 ・予算 ・教科（教師）の連携 ・家庭読書をしない
- ・人がいない（専任が終日いるわけではない、書類上司司書教諭はいるが軽減ない、開館に支障がある、未整理本の整理は司書教諭が行う、司書教諭のコーディネート業務はなされない）
- ・人はいるが、非正規 雇用条件をUP ・授業での活用を増やす ・資料の充実（予算の問題あり）
- ・担任に余裕がないので専科任せになる ・図書館レイアウト
- ・図書館が集中して各教科が重なるので、授業の分散を考慮してほしい
- ・事前に何の課題であるかを知らせてほしい ・本を読める生徒が少ない
- ・図書委員会の活用、活動の時間が少ない→クラブ優先 ・教科担任の図書資料への信頼
- ・生徒による学校自己診断で図書室の利用率が低くてたたかれる
- ・自由読書（「みつけ」「ウォーリー」占い、迷路 多い）
- ・本を選ぶ能力が…（調べ学習） ・来館者の読書活動と授業での営みが微妙にズレる
- ・教科との連携 今年コンスタンスに使ってくれているのはフードデザインのみ 年平均3~4教科
- ・図書委員の指導、中々主体的には… ・多読スペースが狭い ・調べ方 ・余った本
- ・常駐の学校司書がいない ・教員の図書に対する認識不足
- ・欲しい本を要求しない ・図書室を利用した調べ学習を展開していない ・蔵書の種類と数

## <課題に関する解決案>

- ・ボランティアスタッフのサポート
- ・図書室が狭い=本が置けない → ネットワークの活用（公共図書館からの団体貸し出し）
- ・「としょだより」でのアピール
- ・先生方へのアピール（調べ学習の例など）
- ・予算と人員が必要であることを府に訴える
- ・各教科から図書館に関わる人を決める → 図書館を利用した授業
- ・図書（司書）の作業（事務的な）を行う人員増

## ★予算

- ・「たより」「HP」「授業で使う」「よびかける」
- ・古い本の修繕、廃棄
- ・読み聞かせ等のイベント
- ・寄贈をつくる
- ・人の配置、本を買う予算→コーディネート以前の問題
- ・雇用条件の整備（人材が逃げる）
- ・教師がもっと活用する図書室にする
- ・調べ学習で使用できる図書を多く配架する
- ・現状の報告と共有、コミュニケーション
- ・インフラ整備、ハード面
- ・働きかけ、アンケート
- ・体制づくり—相互関係
- ・校長先生をはじめ、他の先生方の理解をいただき、図書館教育の実績を積み上げていく
- ・もっと教科と連携して、図書館を活用する
- ・来館者を増やす工夫
- ・生徒の好む本の選書
- ・年間計画を立てて、取り組んでいく  
その中に、調べる学習を入れていくようにする
- ・このような研修の機会に情報を知り合い、参考に実践していく
- ・年間計画として年度初めに提案する
- ・図書館を毎日開ける（昼休みだけ、放課後だけなど）